芦田恵之助先生の実践に学ぶ

田教式の現代的意義

令和元年七月二二~ 二四日宮城県東松島市立宮野森小学校にて

いずみ会 会長

読みの指導 (七変化

次指導 (全課の 概

よむ(全文を区画 毎に順繰りに読 音読

二 とく(読後感の話し合い。

合い

活

動 動

活

目(全課の輪郭)

② ⑤ ひびき(印象の強かったところ)

③○手 引 (第一層が一握りできるように)

よむ かく(三よむで探した語句を書く。 (手引にしたがって、語句を探す。黙読活: 動

五四 (板書を指黙読し、 指音読する。 音読活動)

とく(文に即して、事の中に意をにおわせる。

話し合い 活 動

事実・区分 (有機的なつながり)

(5) (0) 6 山(第三層発見のいとぐち) 余韻(自習のいとぐち)

よむ (今日の勉強を考えながら読む。

音読

活

動

第二次指導(重要なところを)

よむ (原則、全文を順繰りに読む。 音読

活

動

一 とく(事を通して意をつかむ道筋 おさらい(④をあっさり、⑤に重点をおいて 話し合い 活動

80 承 接(⑥を承けて後につなぐ)

引(第三層がつかめるように)

(手引にしたが つて読

黙読

活

動

かく (三よむと同時進行で書く。 視写活

六 五 四 よむ とく(文に即して意をとっぷり理会させる。 (板書を指黙読し、指音読する。 音読活 動

話し合い活動

① 〇 語義・区分(考え易いように)

① ① 心(第三層の発掘

余韻(自習のいとぐち)

よむ (今日の勉強を考えながら読 む。 音 読 活

第三次指導(形式の 取扱い)

よむ(全文を順繰りに読

動

一 とく(真意をしみじみ味わう 話し合い

おさらい (第一層を回顧し、⑪に重点をかけて 合い活動

<u>14</u> <u>O</u> 承接(⑩を承けて後につなぐ)

(15) () 手 引 (文字か語句か)

三 よむ(手引にしたがって読む。

黙読

活

動

かく(三よむと同時進行で書く。

五. よむ(板書を指黙読し、指音読する。 視写活動) 音読 活

動

とく(文に即して意をとっぷり理会させる。 話し合い活動

<u>16</u> 文中の位置(第一層に位置づけて)

①7 ① こもる力(第三層と結んで)

(題目にかえれ)

よむ (今日の勉強を考えながら読 音読 活

作文 記述の指導

文話 (五分程度)

書きたいという雰囲気を作る時間 作文の材料になるような日常の話題や前回の作文の話をして、

二文題発表 (八分程度)

発表を聞いてちょっと質問し、題が決まらない子の参考にする。 二、三日前に予告し、作文の題を四、五名に発表させる時間。

三記述 (二十五分程度)

囲気を作る。 マス目いっぱいの字で書かせ、 枚程度で書ける内容に絞り、 教室は鉛筆の音のみという雰 消しゴムは使わせない。

*担任は、教卓の横で見守るのがよい。

ここは子どもに委ねるしかないと、肚をくくって祈る。

四 自己批正 (四分程度)

読み直して、 加除修正。

五 提出 (三分程度)

担任は労を労いながら受け取る。 表折半分にして担任に手渡す。

作文 批正の指導

総 評 (七分程度)

記述上の課題も一つ取り上げて指導する。 第一読者である担任の感想を、 良い所を中心に話す。

個 評 (七分程度)

作文を苦手とする子を中心に、 七名程度の作品を紹介する。 温かく読み取って話してあげる。

三優良文朗読 (六分程度)

作者に、ゆっくり読ませる。 その後、 一言コメントをつける。

四 聴 写 (二十分程度)

これで、作文の決まりが身につく。 月に三回、年間三〇回で全員の作品を聴写文に使える。 教師が、板書しながら読むのを聞いて、 句読点等の記号や改行も指示する。 原稿用紙に書いてい

五. 細 評 (五分程度)

聴写文を作者に読ませ、よい点を考えさせる。 総評で扱った課題があったら、そこも確認する。

芦 田 教 式 自学自習する力が育つ指導法

- \bigcirc 担 任 (教師)が自学を始める。
- 2 学 び方の基礎が自然に身についてくる。
- 3 教 育 的 配 慮が学級に学ぶ雰囲気を作り 出 す
- (5) 4 6 非 自 螺 認 分 旋 の育とうという力を信頼できるようになる。 的 知 能力の重要性に気づくことができる。 向上が図られ、どの子も育つ喜びを味わえる。

体事例の考察 (別紙の教材文で各自授業構想を)

光 村 村 六 一年下 年 どうぶつの赤ちゃん 詩 生 きるし ますいみつこ

光

谷]]] 俊 太郎

リーディングスキルテストが基準とする読解のプロセス

、文節に正しく区切る。

(例:私は学校に行く。→私は/学校に/行く。)

一、 係り受けの構造を正しく認識する。

(例:美しい水車小屋の乙女。→美しいのは「乙女」である)

三、述語項構造や接続詞を正しく解析する。

、その引派という。なんでは、こうでは、こうでは、「はない」(「誰が」「何を」「どうした」のような構造を正しく認識する)

五、日常生舌での径険や云引から得られる常識と、小学交における。(例:私はハンカチを落とした。それを彼は拾った。⇒四、照応関係を正しく認識する。 「それ」は「ハンカチ」である)

意味を実世界に関する知識の中に位置づける。
学び等から得た知識と、簡単な論理推論によって、未知の用語の五、日常生活での経験や伝聞から得られる常識と、小学校における。

(語レベルのマッピング)

や概念の意味を実世界に関する知識の中に位置づける。学び等から得た知識と、簡単な論理推論によって、未知の関係六、日常生活での経験や伝聞から得られる常識と、小学校における

(文構造レベルのマッピング)

られた観点において、また問題解決の上で必要な情報を適切に取八、得られた多くの情報間の重要度を適切に付与する。特に、与えことにより、実世界に関するさらなる知識を獲得する。七、既存の知識と新たに得られた知識に対して、論理推論を働かす

も実行できる。 九、同様のことを、図やグラフ等、ほかの論理的表象手段について

捨選択する。

味を介してチェックすることができる。十、テキストと図やグラフで表していることの同一性を実世界の意

リングして修正する。 (RST:新井紀子氏の資料より)十一、以上の各処理において誤りがないかをメタな視点からモニタ

|一世紀は壁にぶつかった時にめげない発想力が不可な

をもっていることもわかりました。
世界の中で良い仕事をした人は、皆おしなべて高い非認知能力戦する粘り強さ、すなわち非認知能力に可能性を見出したのです。ったときにアイデアをいくつも出せる発想力、失敗から学んで挑解決に必要な能力について先進国が研究した結果、壁にぶつか

にして、大人が困らないようにする工夫」を学べるプログラムなのです。いものを置いてあげよう、と工夫します。「子どもの気持ちを大事いる」など、気持ちを考えます。その次の段階で、落としてもよ子どもの気持ちを推察することなんです。本棚の本を落としていたという自主幼稚園があります。その研修内容のかなりの部分がニュージーランドには、親が研修を受ければ開けるプレイパーニュージーランドには、親が研修を受ければ開けるプレイパー

非認知能力は特別なことをしなくても育まれる

…そんな環境があったからです。助け合ってつき合う、子ども同士で自然の中や町内を遊びまわるけやすかったんです。機械がないから自分で工夫する、隣近所と実は非認知能力は、少し前までの不便な暮らしの中では身につ

未来を救う知恵を育むことにつながっていきます。
・子どもがやることを「おもしろいなあ」と楽しめたら、それがもっと肩の力を抜いて子どもをゆったり見守れるといいですね。現代は子育てがとても窮屈なものになってしまいました。

児についても発信。NHK『すくすく子育て』でもおなじみ。教育学、育児学。積極的に三児の育児にかかわった経験から父親の育お話をうかがったのは、汐見稔幸先生:白梅学園大学学長。専門は

1 「いいねそれ!」「お母さんと一緒にやってみよう!!」

さまの「やる気」を育てる。 「やってみたい!」という子どもの気持ちを大切にしてお子

②「こうすればできるんじゃない?」「〇〇ちゃんならできる!」

力・自己抑制力」をつける。 興味を示したことを最後までやり抜く手伝いをして、「忍耐

3 「上手にできたね!」「これやってみない?」

続くよう声かけする。 好きなことを長く続けていく環境を整えて、「情熱や意志」が

④「○○つくるの、おもしろそう!」

思う存分何かを創って、「創造性」を育む。

(5) 「どうしてケンカになっちゃったのかな?」

ーション力」をつける。 お友だちとケンカをしないで、「リーダーシップ・コミュニケ

⑥「今、ほかの人は何をしているかな?」

ときには、周りの人が今何をしているかを聞いて「状況の理

解力・協調性」を身につける。

「〇〇ちゃんはどう思っているかな?」

ある気持ち」を育てよう。 お友だちがどう思っているかを話し合い、「誠実で思いやりの

8 「ダメ!」「早くしなさい!」などの声かけはタブー

否定的な表現や命令の言葉はお子さまに使わないように心が 「自信・自尊心」を育む。

⑨「大丈夫!」「がんばったね!」

んばる「逆境力」をつける。 自分の思うようにいかなかったことがあっても、また次にが (ネットから 番号は私が)

非認知能力の中身は九つの要素からなります!

自己認識

自分に対する自信がある、やり抜く力がある。

意欲:

やる気がある。 意欲的である。

忍耐力:

忍耐強い。 粘り強 い。 根気がある。 気概がある。

自制心:

精神力が強い。

自制心がある。

メタ認知ストラテジー: 意志力が強い。

自分の状況把握

社会的適正:

社会性がある。リーダーシップがある。

回復力と対処能力:

すぐに立ち直る。うまく対応する。

創造性:

創造性に富む。 工夫をする。

性格的な特性

全ての要素を支える人としての性格的な資質も重要。

(グリッド)」が重要な要素だと言えます。 前記の非認知能力九つをもう一度見ると、どれも「やり抜く力

ぐにわかりますかね? が何故「成功の鍵か」と考えるとき、 並んででてくるのは、 さて、もう一つ非認知能力の重要性を語る時に、「グリッド」と 実は上記の中にもある自制心です。自制心 ダイエットを例にすればす